

山口市菜香亭だより

# 西の菜時記

特集：菜香亭初の書道展・書道パフォーマンス

山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360

平成31年2月20日発行  
第51号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

1月27日(日)に特に優秀な賞を受賞された皆さんを招いて表彰式を開催しました。「進」「挑」など中学校入学目前の6年生、希望でいっぱい力強い書が選ばれました。「菜香亭には日本の歴史を担ってきた人たちの熱い思いのこもった書が並んでいます。皆さんの字にも熱い心を感じました。これからも基本を大事にして学びつづけてほしい。」と、藤本教育長からの激励の言葉が贈られました。



表彰式開催

表彰式授与式をこの度展示しました。一番多かった漢字は「笑」でした。友達と笑顔で楽しく過ごしたいなど託された思いに小さな感動をたくさんいただきました。



表彰式の様子

今年元号が変わる節目の年。また、山口市菜香亭は移築開館して15年目になります。菜香亭には明治・大正・昭和時代に政財界の重鎮が訪れ、揮毫された書が残されています。書を通じて日本の歴史や文化を、次世代を担う子どもたちに受け継いでいってほしい。そのような思いで初の書道展を開催する運びとなりました。

## 2019年を漢字一字で表す書道展



菜香亭の大広間下の間に入選作品100点を展示。



- 【審査員特別賞】  
良城小学校6年  
須子 奈津美
- 【山口市長賞】  
大内小学校6年  
池部 ひかり
- 【最優秀賞】  
大殿小学校6年  
末継 千夏
- 【山口市教育長賞】  
湯田小学校6年  
田熊 千暉
- 【山口市菜香亭賞】  
平川小学校6年  
石崎 海音



前列右から、最優秀賞の末継千夏さん「進」  
山口市教育長賞の田熊千暉さん「挑」  
山口市菜香亭賞の石崎海音さん「夢」



審査員特別賞の須子奈津美さん「進」(左)



山口市長賞の池部ひかりさん「頑」

山口市菜香亭ご利用案内その(37)

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

萩往還写真展

—やまぐち萩往還部会の会— 12/12~12/16



<平成30年度 市民ギャラリーの予定>2月

月日	時間	タイトル	主催者
3/2・3	10時~16時	おいでませハーダンガー 刺しゅう展~手作りの彩りを添えて~	ハーダンガー ちくちくの会

出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。  
(お問い合わせ) TEL:083-934-3312



### 山口県政資料館(国重要文化財)~旧県庁舎編~

旧県庁舎と旧県会議事堂が「山口県政資料館」として国の重要文化財として指定されたのは、昭和60年(1985年)11月15日です。このうち旧県庁舎で重要文化財に指定されている部分は、ロの字型の建物の南側正面の1~2階部分だけです。

旧県庁舎の建築様式の特徴は、全体的に西欧後期ルネッサンス様式を基調として、屋根の中央部分が高い中心尊重主義の形式を取り入れ、突起型の装飾物、三連の飾窓など正面から見ると左右対称となっています。又、玄関の4本の列柱とスロープ、2階のバルコニーがある外観を見ると何となしに現在の国会議事堂(昭和11年・1936年建設)を彷彿とさせるものがあり、そのモデルとも言われています。これは、山口県庁舎の設計者の一人である大熊喜邦(おおくまよしくに)が、現国会議事堂の設計者でもあるためと考えられます。

玄関の4本の列柱は、西洋建築では見られない創造的な形状で、下から台座が四角、中身が八角、その上の柱頭は木造の船肘木(ふなひじき)を形どったインド様式の建築手法となっています。そして2階のバルコニーでは、ご行幸の昭和天皇陛下や帰郷の佐藤総理大臣などがお立ちになり、久しく県民にお会いになられたところでした。

旧県庁舎の見所の一つは、2階の中央部分にある「旧正庁会議室」で、叙勲や県選奨などの伝達の公式行事、県幹部による庁議などが行われた県庁で最も格式の高い部屋です。このため部屋の装飾は、壁には「コリント式のアガンサスの葉」を形どった柱を配し、天井部には豪華なシャンデリアがあり、正面の壁面には大正の安藤広重と言われた吉田初三郎の「山口県俯瞰図(ふかんず)」が飾ってあり、特別の雰囲気醸し出しています。



旧正庁会議室。白とペパーミントグリーンのおしゃれで明るい雰囲気。

そしてもう一つは、2階東側にある旧知事室で、この旧県庁舎の中でも一番和風と洋風のデザイン手法が極めて高いレベルで用いられている部屋です。天井は木製円形の飾り格子とし、知事応接室との間にマントルピースが設置され、和風の手法と見事に融和して、落ち着きを感じさせます。この部屋には、大正15年(1926年)に昭和天皇が皇太子の時行啓され、お泊りになられたそうです。なお、豪華なマントルピースは、これまで使った形跡はないようです。

まだまだ旧県庁舎の特徴や見所は沢山ありますが、残念ながら大正5年(1916年)の建設以降大規模な修復がなされておらず、雨漏りや漆喰の劣化があるとその都度小修繕が行われる程度で、県財政の事情もあるが折角の重要文化財の保存方法に一抹の寂しさを感じるものがあります。

※マントルピース…壁につくりつけられた暖炉のまわりの装飾



美しい天井の飾り格子とマントルピース。重厚感あふれる旧県知事室。